

た なか ひかる
田中 光さん

**大学学部留学 (JASSO 海外留学
支援制度 (学部学位取得型))**

2020年4月
熊本県立玉名高等学校 卒業

2020年9月
トロント大学 応用科学工学部
材料工学科

卒業後

学部課程卒業後は修士課程に入
学し、その後就職 (日本あるい
はカナダ) にて就職希望。



可能性は無限大

海外留学のきっかけと学部選び

私が海外大学への進学を強く意識し始めたのは、高校一年次在籍中に経験した米国での交換留学からの帰国後でした。米国の高校に通い多様な価値観を持つ生徒と交流した私は、大学の4年間で海外で過ごし、より多様な価値観を持つ生徒と交流して物事を多角的に見る力を養いたいと感じました。また、米国留学中多くの生徒と交流を重ねたことで、海外の大学に進学し日本では決してできない世界中に広がる人脈を築き、自らの選択肢を増やしたいという強い思いが生まれました。

大学選びの理由

私がカナダに進学を決意したのは、大学在学中に長期インターンシップができる点に魅力を感じたことと、私が学びたい分野である原子力工学に力を入れていることに魅力を感じたからです。カナダの大学の工学部では、在学中に単位の一環として長期インターンシップに取り組むことができます。このプログラムでは、学んだ内容を実際の仕事に生かすことができ、社会に進出した際に即戦力として活躍できるようになります。

トロント大学での学び

私が在学している材料工学科では、一年次から実践的な教育を受けることができます。1年次には、他学科の生徒とチームを組み、企業が抱えている問題を解決するプロジェクトが必修科目となっています。

このプログラムでは、課題解決のために必要な企画力や、プロジェクトマネジメント



お世話になった研究室のメンバー

課題解決に取り組むCapstoneに取り組みます。即戦力となれる人材育成が特徴です。

学部卒業後の取り組み

トロント大学に留学し学びを深める中で、私は材料工学がいかに広い範囲で応用されているかを学ぶことができ、学んだ知識を社会課題の解決に生かしたいと考えようになりました。具体的には、学んだ材料工学の知識を生かして、現在世界各国が抱えているエネルギー問題の解決に取り組みたいです。

留学経験の活用

私は、自身が経験した留学での学びをこれから進学を目指す中学生、高校生に積極的に伝え、生徒たちの主体的な進路選択に少しでも貢献したいと考えています。そのため、地元・熊本県が主催する中高生向けの進路説明会や、その他団体が主催する進路相談会に積極的に参加し、自身の経験を伝えていきます。

海外大学のすすめ

海外大学では、日本の大学では決してできない世界中につながる人脈を築くことができます。また、世界から集まる多様な価値観を持つ生徒と交流を深めることにより、物事を多角的に捉え、既存の考え方に縛られない柔軟な発想を身につけることができます。



インターン先の友人と前委員長
(向かって左から2番目)

私の英語勉強法

「アウトプット」>「インプット」

私がおすすめする英語の学習法は、「アウトプット重視の学習」です。具体的には、リーディングやリスニングよりも、スピーキングやライティングといったアウトプットを中心とした学習を意識することです。スピーキングやライティングは日頃の訓練を積まないと成績が伸びにくいです。加えて、アウトプットを中心にするリーディングやリスニングのスキルも同時に伸ばすことができます。



たか ひら なつ め
高平 夏芽さん

**大学学部留学 (JASSO 海外留学
支援制度 (学部学位取得型))**

2019年3月
横浜市立横浜サイエンス高等学
校 卒業

2019年8月
オーストラリア
Trinity College ファンデー
ションコース

2020年6月
Trinity College 卒業

2020年8月
オーストラリア
The University of Melbourne
Bacheor of Science

2021年7月～2022年2月
COVID-19のため休学

2023年12月
The University of Melbourne
卒業

2024年4月
総合研究大学院大学
極域科学コース 5年間一貫博
士課程 入学



森で見つけた大きな木と

南極の魅力に導かれて

きっかけは南極の講演会

子どもの頃から、動植物が好きで将来は冒険者になりたいと思っていました。高校1年生の頃、南極の湖沼やその生態系に関する講演を聴き、私の想像もしない世界が広がる南極、特に湖沼生態系に大きく惹きつけられました。私の通っていた横浜市の高校では海外大学への進学を支援するプログラムがあったことから、世界で唯一、学部で南極学を専攻できるオーストラリアのタスマニア大学への進学を目指し始めました。

生態学を学ぶためオーストラリアに

最初はタスマニア大学への進学を考えていましたが、南極の研究において私が学びたいのは、南極の植物とそれらが作り出す生態系だと気が付きました。このため、生態学や進化について焦点を当てて学べるメルボルン大学に進学をしました。オーストラリアは独自の生態系を持っているので、そこをフィールドに生物を学ぶことはとても有意義だと感じました。オーストラリアの大学への出願はエージェントを通して行われるので、出願方法や大学での生活などについては主に、エージェントの方とOBの方に教えていただきました。

自分に合った大学生活を

大学はさまざまな機会を提供してくれます。それをどう使うのかは自分次第だと思います。



高山植物の観察

ます。私はフィールドワークをメインに授業を取っていたので、大学の庭やメルボルン郊外の国立公園、真夏に雪が降る山やケアンズの熱帯雨林でたくさんの時間を過ごしました。植物標本館でボランティアも行き、実際に植物に触れる機会がとて多かったです。一方で同じ学科でも、ラボやディスカッションベースの授業をたくさんとっている生徒は大学や他の研究室で過ごす時間が多かったと思います。将来自分がやりたいことと、自分の勉強スタイルに合わせて授業を選択できたらいいと思います。

やりたい研究ができる日本の大学院へ

大学卒業後、タスマニアの大学院に進学するか迷いました。しかし、私の研究したいテーマに近い分野の先生がいることや、実験の設備が整っていること、また金銭的な面から日本の総合大学院大学の極域科学コースへの進学を決めました。今後は、南極湖沼の研究を通して生態系の共通原理を明らかにしたいです。

南極に国境はない

留学前、私が文化や言語が違う友達と親しく喋っている姿は想像できませんでした。しかし、いつの間にか私の周りには様々な国の友人がいました。豊かな生態系には異なる特性を持つ生物が共存しています。私達は、みんな違っているけれど、それは全てマイナスイメージではなく、一緒に生活する上でとても大切な事だと思いました。

環境に期待しない

海外に行っただけで、自分の中で何かが変わるわけではありません。新しい環境の中で、自分がどう生活するのが大切だと思います。留学先で何を実現したいのかを考え、具体的な答えが見つからなくても、積極的に行動し、大学を活用して大学生活を豊かにしてください！



大学の近くの公園

私の英語勉強法

「馴染みのあるトピックを英語で読もう」

本やニュースを英語で読むことはとてもおすすめです。私は日本のニュースを英語で読んでいました。日本のニュースは知っている話題が多いので、単語の意味などを推測してスムーズに読むことができました。いつもニュースを読んでいると、同じ単語が繰り返されて使われるため、何度も繰り返しながら覚えることができます。また、動画のニュースを見て、その内容を要約する練習もリスニングとスピーキング対策に役に立ったと思います。

